

事実婚関係に関する申立書 (記載例②) (ハンセン病元患者家族補償金申請用)

1 婚姻の意思を有し、夫婦として共同生活を営んでいたことについての申立

下記①の者と下記②の者は、戸籍上の婚姻関係にはありませんが、当時婚姻の意思があり、③の期間において、夫婦としての共同生活を営んでいました。

① 氏名 厚生 太郎 (印) 住所 東京都千代田区霞が関〇-〇-〇
② 氏名 労働花子 (請求者記載) (印) 住所 _____

※本人自署の場合は押印省略可能

③ 明治・大正・昭和・平成 〇 年 〇 月 〇 日・頃
～ 明治・大正・昭和・平成・令和・請求日現在 〇 年 〇 月 〇 日・頃

2 同居についての申立

上記①の者と上記②の者は、次の期間において、同居していました。

明治・大正・昭和・平成 〇 年 〇 月 〇 日・頃
～ 明治・大正・昭和・平成・令和・請求日現在 〇 年 〇 月 〇 日・頃

3 別居についての申立

上記①の者と上記②の者は、夫婦としての共同生活を営んでいた期間のうち、次の期間においては、別居していましたが、その理由は次のとおりです。

明治・大正・昭和・平成 〇 年 〇 月 〇 日・頃
～ 明治・大正・昭和・平成・令和・請求日現在 〇 年 〇 月 〇 日・頃

<上記期間に別居していた理由>

昭和〇年〇月、厚生太郎 (①) がハンセン病患者として、療養所に入所したため。療養書入所後ほどなく、昭和〇年頃からプロミンの治療を受けることができ、昭和〇年には退所しました。退所後には、再び同居しました。

4 備考 (※補足説明をしたい事項がある場合のみ、記載してください。)

(次ページにお進みください)

4 第三者による証言

<証言1>

(※該当する証言にチェック)

- 婚姻の意思に関する証言 別居の理由に関する証言
 夫婦として共同生活を営んでいたことに関する証言

上記①の者と②の者の関係について、私が把握している事実は、次のとおりです。また、私は上記①及び②の者の民法上の三親等内の親族ではなく、次の証言に虚偽はありません。

私は、厚生太郎さん(①)と同時期に療養所に入所していましたが、労働花子さん(②)は、療養所内で厚生太郎さん(①)のことを夫として紹介していました。

氏名 安心 太郎 (印) 住所 東京都千代田区霞が関〇-〇-〇

※本人自署の場合は押印省略可能

<証言2>

(※該当する証言にチェック)

- 婚姻の意思に関する証言 別居の理由に関する証言
 夫婦として共同生活を営んでいたことに関する証言

上記①の者と②の者の関係について、私が把握している事実は、次のとおりです。また、私は上記①及び②の者の民法上の三親等内の親族ではなく、次の証言に虚偽はありません。

私は、厚生太郎さん(①)と同時期に療養所に入所していましたが、厚生太郎さん(①)と労働花子さん(②)は、療養所に入所している間別居していましたが、退所した後は再び同居するという話を聞いていました。

氏名 共生 光子 (印) 住所 東京都千代田区霞が関〇-〇-〇

※本人自署の場合は押印省略可能

<証言3>

(※該当する証言にチェック)

- 婚姻の意思に関する証言 別居の理由に関する証言
 夫婦として共同生活を営んでいたことに関する証言

上記①の者と②の者の関係について、私が把握している事実は、次のとおりです。また、私は上記①及び②の者の民法上の三親等内の親族ではなく、次の証言に虚偽はありません。

私は、かつて、厚生太郎さん(①)の隣の家で暮らしていましたが、厚生太郎さん(①)と労働花子さん(②)は、家事・育児を分担する、経済的に協力し合うなど、夫婦として共同生活を営んでいました。

氏名 健康 太郎 (印) 住所 東京都千代田区霞が関〇-〇-〇

※本人自署の場合は押印省略可能

厚生労働大臣 殿